

クラス	TU304	担当教員	亀谷 和史
(^ ! ^) /	テーマ	乳幼児の発達と子どもの権利を深める — 「保育実践力」と「保育の専門性」を高めるために—	
	著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践Ⅱ』(勅使千鶴・東内瑠里子共編著)(新読書社)2016年、『同Ⅰ』(勅使千鶴・東内瑠里子共編著)(新読書社)2013年、「アンリ・ワロン的人格発達理論における『機能連関』と『指向性機能』に関する一考察」(『日本福祉大学子ども発達学論集』第8号・2016年)、『現代保育と子育て支援—保育学入門(第2版)』亀谷和史編著(八千代出版)2008年、など。	

セミナー概要

キーワード：乳幼児期、発達、保育実践力、保育の専門性、子どもの権利、

[目的、内容、等]：

◎このゼミでは、「保育実践力」や「保育の専門性」を高めるために「乳幼児の発達」とそれにふさわしい「子どもの権利」の内実について学び、深めます。

(1) まず第1に、テーマに掲げたように、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、「自我」の発達や自尊心・愛着形成(あるいは愛着障害)などを学びます。

①誕生からおおよそ、1、2歳代の発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。要するに、乳児保育の内容・方法を発達の・専門的に深めていきます。

②次に、幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達の視点から保育実践の内容・課題についても学習します。ビデオ学習なども行います。

③以上のことを、エリクソン、ボウルビィー、アンリ・ワロン、などが提唱した、「基本的信頼感」や「愛着」の重要性、乳幼児期の「情動交流」や「共感」関係の重要性を学習します。また最新の乳幼児期の発達研究を学びつつ、「保育実践力」や「保育の専門性」を深めていきます。

(2) 第2に、「子ども・子育て支援制度」以来、保育所、幼稚園、認定こども園、小規模保育施設など、保育・幼児教育の制度が「多様化」し、「保育の質」の格差が生じかねない仕組みが始まっています。そこで、今、課題となっている保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題などについても学習していきます。待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」も取り上げて、皆さんと考えていきたいです。タイムリーな新聞やインターネットでの話題も取り上げていきます。

[方法等、ゼミの進め方、等]

○3年次のゼミの前半では、あらかじめスケジュールを決めて、毎回、グループあるいは個人で、指定文献(テキスト)を精読し、さらに独自に学んだり調べたりした内容を加えて、要旨をまとめ、プレゼンテーション(発表)します。担当教員が、ミニ・レクチャーを行う場合もあります。

○後半では、グループあるいは自分自身のテーマや課題を決めて、スケジュールをあらかじめ決めて、順に発表します。そして卒業研究の準備に向けて取り組みます。

○保育園、幼稚園、認定こども園などにテーマを定めて見学や体験実習も予定しています。

○毎年、夏休み後半に、恒例でゼミ合宿に行きます。(今から合宿代2万~3万円を貯めておいてください。)(※ちなみに2019年度は、大阪府茨木市のほづみ保育園、2018年には、異年齢保育で有名な滋賀県野洲市のきたの保育園に一日体験見学に行きました。)

○3年次の後期から、本格的には4年次になって、卒業研究に取り組みます。個人で専門的なテーマを決めて、「子ども発達学専門演習Ⅱ論文」(=卒業論文)として執筆します。(※毎年、3年生と4年生合同の卒業研究発表会を行います。(公開で、学科での恒例の最後の発表会です。))

○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生に発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。

*乳幼児の発達に関心のある人、学ぶ意欲とやる気のある人は、歓迎です。しっかりと、志望動機(エントリーシート)を書いてください。

*みんなで、有意義で楽しいゼミをつくっていきましょう(^ ! ^) /

使用テキスト

皆さんと相談して決めます。指定必読文献としては『育ちのきほん—0歳から6歳』神田英雄著(ひとなる書房)

担当教員からのメッセージ ↑上にいっしょに書きました↑